

従来の介護業務の記録では、手書きやパソコンへの手入力することが多く、業務が完了してからの作業となつておらず、タイムリーに記録ができぬ。そこで、スマートフォンなどを活用した音声入力で、タイムリーな介護業務記録システムの実現性を検証しながら、音声入力サービスのプロトタイ

三 カイゴメモ

介護対象者 穴沢 奉二	業務種類 通所介護
対象日 <u>2017-09-19</u>	記入者 介護 奉子

介護記録 介護参照

音声入力 あA

いつもの様に食事を始めたが
5分ほどするとお膳の箸を手
に終わぽんやりとしているの
に気がつく

クリア 保存

戻る バイク用語 改行

音声認識の日報システム



スマートフォンで
会議記録を音声認識する様子

場で使うヘルメットの中に心拍・体温などを計測できるセンサーを組み込み、熱中症の危険が生じたときにアラームを発するシステムも開発した。「最初はシャツなどに組み込みことも考えましたが、作業員の人数分必要となりコストがかさむことから、複数人で利用で



若桑茂代表取締役
(右手前)



自動下草刈口ボット

効率化を実現する

介護分野の課題解決プロ開発に取り組んでいたノベーション・ハブは、また、介護施設ごとの介護現場での課題解決システム業務フローにIT-IOTを積極的マットが異なるつていて導入しようと取り組ため、地域全体でのデータ入力が進んでいない。その中でも注目したいのが「音声認識」という課題もある。それを活用した日報作成システムである。

長岡介護イノベーフォーマットを入手しショーン・ハブとは、技術それらに対応でき互換の「使い手」「作り手」「つ性のある音声入力システム」である市内の介護施設、ものづくり企画業、3大学1高専(学生)金融機関、行政などはこうだ。まず介護士がの異業種が集まり、I現場でスマートフォンT-IOT・ロボットな音声で業務の記録をなどの技術を活用して、課力する。システムが音声問題解決に取り組む組織を認識し、日報が自動記録のこと。活動の中から生録される。事務所に戻るまでの技術やシステムと、現場で記録した日報をビジネス化することを確認できる。事務所でも粗いの一つである。はなく現場で直接音声入力ができるため、日報時に記録している日報設の従業員が業務終了

「介護メモ」の作成にかかる手間が大幅に削減できるといふ。同システムは2月から本格実証に入り、まず介護士に慣れ讓他們からスタートする。1週間音声入力を使って、日報を記録してもらい、記録したものを使つて、介護施設での口頭記録基に、改良に向けた改善と検証を繰り返し行うことで、介護システムの完成を早急に目指す。

長岡介護イノベーション・ハブでは、Nan Dec BASE(長岡市)を拠点に、月1回2時間程度活動している。そのほか介護機器ロボットや学生Windowerチャレンジコンテスト(3月13日審査)などのイベントも行なうという。

音声認識で日報作業の効率化を実現する「介護メモ」

連載 新潟のＩＴ活用 最新動向

連載 新潟のＩＴ会社 最新の取り組み

第4回 アイビーシステム（新潟市北区）

介護分野の課題解決に関する取り組みについて、長岡介護院のノベーション・ハブによる取り組みを紹介する。

ノベーション・ハブは、また、介護施設ごとの介護現場での課題解決システム業務フローにIT・IOTを積極的にマッチが異なるっている。導入しようと取り組むため、地域全体でのデータ収集と分析を行っている。その中でも注目したいのが「音声認識」という課題もある。そこで、音声認識技術を活用した日報作成システムである。

長岡介護イノベーション・ハブでは、技術者たちに「使い手」「作り手」「つなぎ手」である市内の介護施設、ものづくり企画業者、3大学1高専（学生）、金融機関、行政などはこうだ。まず介護士が現場でスマートフォンや業務用端末（T・I・O・T・ロボット）などで音声で業務の記録を入力し、システムが音声認識して課題解決に取り組む組織を認識し、日報が自動的に記録されること。活動の中から生録される。事務所に戻るまでの技術やシステムと、現場で記録した日報をビジネス化することを確認できる。事務所でも粗いの一つである。ではなく現場で直接音声を記録して、音声認識技術を活用して、各施設から記録された音声データをもとに業務日報などの記録を作成する。

う。 同システムは2月から本格実証入り、まざと介護士に慣れてもらうところからスタートする。1週間音声入力を使って、日報を記録してもらい、記録したものに基づいて、改良に向けた改善と検証を繰り返し行なって、介護施設での口頭報告成システムの完成を目指す。 長岡介護イノベーション・ハブでは、Nac Dec BASE(長岡市)を拠点に、月1回2時間程度活動している。そのほか介護機器のボットや学生Wintererチャレンジコンテスト(3月13日審査)などのイベントも行なう。

LOGO・AI開発からアバボアーリー口ボットアブリ、基幹システムまで開発

是角丸で耳も細め細めのこと。活動の中から生まれた技術やシステムをビジネス化することも狙いの一つである。

介護現場では、介護施設の従業員が業務終了時に記録している日報作業での残業時間の増加に課題に抱えている。そこで業務効率化を図るために、「音声認識を活用した日報作成システム」の開発を進めている。

従来の介護業務の記録では、手書きやパソコンへの手入力することが多く、業務が完了してからの作業となつておらず、タイムリーに記録ができるない。そこで、スマートフォンなどを活用した音声入力で、タイムリーな介護業務記録システムの実現性を検証しながら、音声入力サービスのプロトタイ

本音譯し、日報が自重語
録される。事務所に戻るボットや学生Win
ど、現場で記録した日報tチャレンジコンテ
を確認できる。事務所でスト(3月13日審査)な
はなく現場で直接音声
入力ができるため、日報
のいつもの様に食事を始めたが
5分ほどするとお膳の箸を手
に終わぽんやりとしているの
に気がつく

スマートフォンで
介護記録を音声認識する様子



う。同システムは2月から本格実証入り、まざと介護士に慣れてもらうところからスタートする。1週間音声入力を使って、日報を記録してもらい、記録したものに基づいて、改良に向けた改善と検証を繰り返し行なって、介護施設での口頭報告成システムの完成を目指す。長岡介護イノベーション・ハブでは、Nac Dec BASE(長岡市)を拠点に、月1回2時間程度活動している。そのほか介護機器のボットや学生Wintererチャレンジコンテスト(3月13日審査)などのイベントも行なう。

LOGO・AI開発からアバボアーリー口ボットアブリ、基幹システムまで開発

The image is a full-page advertisement. At the top left is a green stylized logo resembling a tree or a stylized letter 'E'. To its right, the company name '株式会社 千代田 エネルギー' is written in large, bold, black font. Below this, a large red banner reads '太陽光発電' (Solar Power Generation). To the right of the banner, the text '新潟市中央区下所島2-17-3' and 'TEL:025-284-1210' is displayed. The background features a photograph of a solar panel array under a clear sky. In the foreground, five workers wearing red uniforms and blue hard hats are standing in a row, looking towards the camera. On the left side of the workers, the text '千代田独自の発電保証で安心!!' (Chidorigaoka's unique power generation guarantee for peace of mind!!) is written. To the right of the workers, a large red '12%' is prominently displayed, with the word '年利回り' (Annual Return) written above it. Below the '12%' text, the words 'も可能!!' (Also possible!!) are written. At the bottom left, the address '新潟市東区中木戸187-2' and phone number 'TEL:0120-092-049' are provided. On the bottom right, there is a graphic of a worker wearing a hard hat and safety vest, with the text 'エアコンレスキューパー隊' (Air Conditioning Rescue Team) and a stylized logo.